

## 第8章 近代ヨーロッパの成立

### 1. 大航海時代

十字軍、マルコ・ポーロ「東方見聞録」以来、東洋文化への関心が高まる。  
国土回復運動を通じてイスラム世界と接触があったスペイン・ポルトガルにおいて、航海術が進歩（羅針盤、快速帆船）し、遠洋航海が可能になる。  
香辛料の需要が高まる一方、オスマン帝国の地中海制覇→新航路開拓へ

#### <ポルトガル>

航海王子 \_\_\_\_\_ (1394-1460)、国王ジョアン2世 (1481-95)  
アフリカ西岸の探検奨励

##### ◇アジア

1488 \_\_\_\_\_、アフリカ南端の \_\_\_\_\_ に到達  
1498 \_\_\_\_\_、インドの \_\_\_\_\_ に到達  
アフリカ東岸マリンディ経由、ムスリムの水先案内人をのせて  
= “新航路の発見” ……首都リスボンはアジア貿易の独占で栄える

##### ◇新大陸

1500 \_\_\_\_\_、ブラジルに漂着し、そこをポルトガル領と宣言

#### <スペイン>

##### ◇新大陸

1492 \_\_\_\_\_ (ジェノヴァ出身、Cristoforo Colombo)  
フィレンツェの学者 \_\_\_\_\_ の地球球体説に影響を受ける  
スペイン女王イザベルの後援を受け、西周りでインドをめざす。  
\_\_\_\_\_ 島 (バハマ諸島) に到達  
以後3回の航海でアメリカ大陸にも到達  
彼自身はそこをインドと信じ、原住民を“インディオ”と命名

※コロンブスの航海の歴史的意義とは？  
新大陸の発見にあるのではなく  
教義・常識を行動によって覆したことにある

1499 \_\_\_\_\_ (フィレンツェ) の探検  
インドではないことが明らかとなり、彼の名から「アメリカ」の地名

1513 バルボア (スペイン人)、パナマ地峡横断し太平洋に到達

1519-22 \_\_\_\_\_ Fernão de Magalhães (ポルトガル人、マガリャンイス) による世界周航  
マゼラン海峡から「太平洋」(=彼が命名)へ  
1521年、彼自身はフィリピンで原住民との戦闘で戦死  
部下は航海を続け世界周航に成功・地球球体説を実証

※マゼランを戦死させたラプラプは  
「ヨーロッパ人による最初の侵略を撃退した」として  
フィリピンでは英雄とされている

##### ◇アジア

1565 レガスピ、セブ島上陸、さらにルソン島占領  
フェリペ2世の名にちなみ「フィリピン」と命名  
1571 フィリピン総督府設置

#### <イギリスの北米探検>

1497-98 カボット (イタリア人)  
ヘンリ7世の命令で、ニューファンドランド・北米東海岸探検

#### <スペインによる中南米侵略>

※征服者たち ( \_\_\_\_\_ ) による侵略

1521 \_\_\_\_\_、メキシコの \_\_\_\_\_ 帝国を滅ぼす  
(ユカタン半島の \_\_\_\_\_ 文明は時代がもっと前)

1533 \_\_\_\_\_、ペルーの \_\_\_\_\_ 帝国を滅ぼす

※より狂暴・野蛮な文明が、柔和な文明を滅ぼした

1545 \_\_\_\_\_ 銀山発見 (現ボリビア、露天掘り)  
インディオや黒人奴隷の酷使 → 価格革命

▼ 銀山や農場などで、インディオの強制労働 (エンコミエンダ制)  
※現在もスペイン系大農場経営者が中南米の支配階級  
先住民系の人々との経済格差が大きく政治不安の根本原因に

⇔ 聖職者 \_\_\_\_\_ (ドミニコ修道会、1484-1566)  
1542年、「インディアス破壊小史」で先住民虐待を批判  
→ 同年、インディオの奴隷化は禁止

▼ しかし、アフリカからの黒人奴隷の輸入がこれに代わる

#### <スペイン・ポルトガルの海外貿易の特徴>

ポルトガル…アジア貿易 (香辛料など) を独占  
スペイン …新大陸から銀を掠奪 (重金主義)

両国とも、この富を自国の産業育成に用いなかったことが  
のちにオランダ・イギリスなどに追い越される原因となった。

#### <商業革命と価格革命>

▼ ヨーロッパにおける遠隔地貿易の中心が、地中海から大西洋沿岸諸国へ移り、  
アジア・新大陸を含む地球規模に貿易構造が変化 → \_\_\_\_\_

※植民地獲得は、国王と大商人の結託による国家プロジェクト→王権強化

※イタリア諸都市の衰退=イタリア・ルネサンスも終焉  
南ドイツの銀山・都市の衰退

▼ ヨーロッパにおける銀の流通量の激増による物価騰貴 (インフレーション) = \_\_\_\_\_

・ 固定地代収入に頼る封建諸侯・騎士の没落  
・ 商業資本家による資本蓄積が進む

▼ \_\_\_\_\_ 貿易 (アカプルコ貿易)  
スペインがポトシ銀山など新大陸の銀を、メキシコのアカプルコから  
ガレオン船でフィリピン (マニラ) まで運んだ貿易  
スペインはこの銀を用いて中国の物産を購入

※同じくポルトガルは、日本との“南蛮貿易”で利益をあげ、  
日本産 ( \_\_\_\_\_ 銀山) の銀を中国へもたらした。

→ これらメキシコ銀・日本銀が中国 (明) で流通し、税制が \_\_\_\_\_ に改革された

※アメリカ大陸の古代文明については自分でまとめておくこと=第2章-4

## 2. ルネサンス (Renaissance 仏)

用語……ブルクハルト (1818-97、スイス、『イタリア・ルネサンスの文化』1860)

理念…… (人文主義)

人間や自然をありのままにとらえようとする精神

その模範をギリシア・ローマ古典文化にもとめた

⇔中世の精神……キリスト教を中心とする、神への信仰と従順

※ルネサンスの二面性

自然科学的分野では、科学的批判精神による神学からの脱却

芸術的分野は、教会・貴族の保護の下で展開

教会の腐敗に対しては批判的だが、キリスト教信仰は薄れない

### (1). イタリア・ルネサンス

契機 { イタリア諸都市の繁栄 (地中海貿易・毛織物業) ←十字軍以来  
政治的分裂・混乱による中世的価値観の動揺  
オスマン=トルコによるビザンツ帝国滅亡→学者たちのイタリア亡命

▶ 14c. \_\_\_\_\_ 中心 (毛織物、東方貿易、金融業で繁栄)

- ・文学 { \_\_\_\_\_ (1265-1321) 「\_\_\_\_\_」  
ラテン語ではなくトスカナ方言での長編詩。ルネサンスの先駆者。  
\_\_\_\_\_ (1304-74) 「叙情詩集」  
\_\_\_\_\_ (1313-75) 「\_\_\_\_\_」 (十日物語)、古い権威の風刺
- ・絵画 \_\_\_\_\_ (1266-1337)

▶ 15c. フィレンツェ最盛期、\_\_\_\_\_家のコジモ、ロレンツォの執政、学芸保護

- ・建築 \_\_\_\_\_ (1377-1446) 聖マリア・デル・フィオーレ大聖堂円蓋
- ・絵画 \_\_\_\_\_ (1444-1510) 「\_\_\_\_\_」 「\_\_\_\_\_」
- ・彫刻 ドナテルロ (1386-1466)、ギベルティ (1378-1455) 「天国の門」
- ・政治学 \_\_\_\_\_ (1469-1527) 「\_\_\_\_\_」

メディチ家独裁 VS 共和派 →フィレンツェ衰退

1494～98年、聖職者サヴォナローラがメディチ家追放し神政政治

▶ 16c. \_\_\_\_\_ 中心……教皇による学芸保護、3大巨匠の時代

メディチ家の教皇2人 (レオ10世、クレメンス7世)

ラファエロらによるローマ市発掘 (ただし遺跡の石材は復興のために再利用)

- ・ \_\_\_\_\_ (1452-1519、「万能人」、種々の発明)  
ヴィンチ村出身、ミラノ公の下で活躍、晩年はフランス王フランソワ1世に招かれる  
「\_\_\_\_\_」…ミラノ聖マリア・デレ・グラツィエ修道院食堂壁画  
「\_\_\_\_\_」…生涯手放さなかった謎多い傑作。ルーヴル美術館蔵
- ・ \_\_\_\_\_ (1475-1564)  
絵画 「\_\_\_\_\_」…ヴァティカン、\_\_\_\_\_ 正面祭壇画  
「\_\_\_\_\_」…同上、天井画  
彫刻 「ダヴィデ像」(フィレンツェ市庁舎前)  
「ピエタ」(サン・ピエトロ大聖堂人口、未完成)
- ・ \_\_\_\_\_ (1483-1520)  
聖母子像を数多く製作、他に「教皇レオ10世肖像画」  
「アテネの学堂」…ヴァティカン宮殿署名の間壁画

建築……ヴァティカン (カトリック総本部) の \_\_\_\_\_ 再建

\_\_\_\_\_ (1444-1514) が最初に設計

→ ミケランジェロが縮小施工

※この建築費用を集めるために贖宥状販売 → 宗教改革勃発

▶ ヴェネツィア (イタリア戦争に巻き込まれず)

・ 画家ティツィアーノ (1490-1576) 「カール5世騎馬像」、祭壇画「聖母被昇天」

◆イタリア衰退

- ・ 1494-1559 イタリア戦争……国際関係の基軸はフランス王対ハプスブルク家  
フランス王フランソワ1世、ハプスブルク家カール5世
- ・ 新航路の発見による地中海貿易の衰退

### (2). その他の地域のルネサンス

狭義のルネサンスはイタリアに限定すべき。アルプス以北においては国民文化の形成

▶ ネーデルラント…毛織物・遠隔地商業で繁栄

- ・ \_\_\_\_\_ (1469-1536) アルプス以北のルネサンス最大の人文主義者  
「\_\_\_\_\_」…教会の腐敗を批判、英のトマス・モアのもとに滞在中執筆  
はじめルターを支持、しかし後に対立、カトリックからは終生離れず
- ・ 絵画 \_\_\_\_\_ (1528-69) ……農民画家  
\_\_\_\_\_ 兄弟 (兄フーベルト 1366-1426、弟ヤン 1380-1441)  
フランドル画派、油絵技法の創始

▶ ドイツ

- ・ 絵画 \_\_\_\_\_ (1471-1528、ニュルンベルク) 「四人の使徒」「マクシミリアン1世像」  
\_\_\_\_\_ (1497-1543) 「エラスムス像」「トマス・モア像」「ヘンリ8世像」

《国民文化》…各国の国王による中央集権化にともなう

▶ スペイン

- ・ \_\_\_\_\_ (1547-1616) ……「\_\_\_\_\_」 (滅び行く騎士道を風刺)

▶ イギリス

- ・ チョーサー (1340-1400) 「カンタベリ物語」 (「デカメロン」と同じ枠物語形式)
- ・ \_\_\_\_\_ (1478-1535) 「\_\_\_\_\_」 (「囲い込み」への批判)  
エラスムスの友人、ヘンリ8世の離婚問題に反対  
→大法官辞職・ロンドン塔に幽閉され処刑
- ・ \_\_\_\_\_ (1564-1616) …世界最大の劇作家  
4大悲劇「ハムレット」「オセロー」「マクベス」「リア王」など

▶ フランス

- ・ ラブレール (1494-1553) 「ガルガンチュアとパンタグリュエルの物語」  
自然児の巨人親子の素朴な生き方を描き、社会的因習を批判
- ・ \_\_\_\_\_ (1533-92) 「\_\_\_\_\_」 (随想録)  
“私は何を知っているか (クセジュ)” →独断と偏見を避け、寛容の精神を説く

### (3). 科学・技術

……キリスト教にとられない自然研究

- ・ 地動説 { \_\_\_\_\_ (ポーランド、1473-1543)  
\_\_\_\_\_ (イタリア、1564-1642、宗教裁判にかけられ生涯監視)  
物体落下の実験、振り子の等時性、望遠鏡発明・惑星観察  
\_\_\_\_\_ (イタリア、1548-1600、宗教裁判で火刑)
- ・ 惑星運行の法則…… \_\_\_\_\_ (ドイツ、1571-1630)
- ・ 3大発明 { \_\_\_\_\_ (→戦法の変化、騎士の没落)  
\_\_\_\_\_ (→大航海時代)  
\_\_\_\_\_ (紙の普及とともに新思想の流行の原動力に)  
\_\_\_\_\_ (独、1400?-68) の発明

### 3. 宗教改革 (Reformation)

教会の腐敗・墮落への批判  
 中央集権を図る国王とカトリック教会との対立 (とくにイギリス)  
 自由を求める市民階級と教会勢力との対立 (カルヴァン派)

※ \_\_\_\_\_ (免罪符) 問題 \_\_\_\_\_  
 14c.初頃から、教会への寄付により罪が消滅するとされるようになった。  
 1504年に、贖宥状総売上上の3分の1が教皇のものとなされたが、  
 問題の1514年販売のものは2分の1が教皇のものとなされていた。  
 王権による統一が進む英・仏では販売しにくいと、ドイツで集中的に販売  
 →ドイツは「ローマの雌牛」。 \_\_\_\_\_ フッガー家が販売に協力した。

1514 教皇 \_\_\_\_\_ (1513-21、メディチ家出身) が贖宥状販売 \_\_\_\_\_ 建設資金調達のため

↓

(1). \_\_\_\_\_ (Martin Luther, 1483-1546、ヴィッテンベルク大学神学科教授)

1517.10.31 \_\_\_\_\_ (Die 95 Thesen) を発表  
 教会による贖宥状販売を批判  
 「人は内面的悔い改めと福音の信仰によってのみ救済される」と説く  
 =福音主義

\_\_\_\_\_ ヴィッテンベルク大学附属教会の門扉にラテン語で掲げた。  
 =当初の意図は「聖職者間の純粋な神学論争」。教皇権威を否定する意志なし  
 ←しかし、何者かがこれをドイツ語に翻訳し、印刷術によって急速に広まる

1519 ライプツィヒ討論……教皇派の神学者エックとの論争の過程で教皇権威を否定

1520 『\_\_\_\_\_』を著す

1521 教会から破門される

〃

\_\_\_\_\_ 帝国議会

神聖ローマ皇帝 \_\_\_\_\_、ルターを召喚し自説撤回を求める  
 →ルターはこれを拒否し、帝国の法の保護外に置かれる

1521-22 ルター、聖書のドイツ語訳 (ザクセン選帝侯の保護下、\_\_\_\_\_にて)  
 教皇・皇帝に対立する諸侯がルターを支持

1524-25 \_\_\_\_\_ ……指導者 \_\_\_\_\_  
 ルターは、はじめ農民に同情的だったが  
 農民の目的が領主権力の打倒と知ると、諸侯にこの鎮圧を勧告

\_\_\_\_\_ ルターは、世俗の権力は神の創造によるものとして尊重し  
 純粋に信仰の世界の改革のみを考えていた。

※国際政治との関連……フランスと結ぶオスマン=トルコのオーストリア攻撃

1526 シュパイエル国会……皇帝カール5世、ルター派を承認し同派諸侯の援助を得る。

1529 再びシュパイエル国会でルター派禁止 (トルコによるウィーン包囲の直前)  
 →ルター派、抗議書 (Protestatio) 提出…… \_\_\_\_\_ の呼称の由来

1546-47 \_\_\_\_\_ 戦争  
 ルター派諸侯・都市がシュマルカルデン同盟結成し、皇帝・旧教勢力と内戦  
 (1531)

1555 \_\_\_\_\_  
 諸侯・自由都市は、ルター派・カトリックのいずれかを選択  
 (個人の信仰の自由は無し。カルヴァン派は認めない。)

※その後、ルター派は北・東ドイツ (領邦教会制) の他、北欧諸国にも伝播

※ \_\_\_\_\_ (スイス, Zwingli, 1484-1531) …… \_\_\_\_\_にて改革運動  
 再洗礼派……幼児洗礼は無効。成人洗礼のみ有効とする (ミュンツァーも同様の立場)  
 →急進的で、ルターと妥協できず挫折

(2). \_\_\_\_\_ (Calvin, 1509-64)  
 北フランス出身。1533年「突然の回心」で福音主義者に。  
 1535年スイスのバーゼルに亡命。 1536 「キリスト教綱要」を著す。

\_\_\_\_\_にて宗教改革および市政改革に着手。ジュネーヴ大学創立

- ・教義的にはルターの聖書中心主義、福音主義を受け継ぐ
- ・教会の階層組織を否定…… \_\_\_\_\_主義 (信者から選ばれた長老が牧師を補佐)
- ・ \_\_\_\_\_ ……魂が救済されるか否かは、あらかじめ決定されている
- ・職業召命観 (英 calling、独 Beruf、天職)

\_\_\_\_\_ “神の栄光”を実現するために禁欲的に天職に専心した  
 その結果としての「富の蓄積」は救済の確信につながる、として肯定  
 →これが近代資本主義発生の一因となる  
 ※マックス・ヴェーバー (1864-1920) 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」

※カルヴァン派の呼称

\_\_\_\_\_、 \_\_\_\_\_、 \_\_\_\_\_、 \_\_\_\_\_  
 (フランス) (オランダ) (イングランド) (スコットランド)

(3). イギリス国教会の成立

\_\_\_\_\_ テューダー朝の絶対王政確立と一体の動き

▶ \_\_\_\_\_ (1509~47) ……教皇レオ10世から「信仰擁護者 (Defensor fidei)」の称号授与  
 しかし、王妃キャサリン (スペイン王家出身) との離婚で、カトリック教会と対立・破門

1534 \_\_\_\_\_ (Act of Supremacy) 発布  
 国王が \_\_\_\_\_ (Anglican Church) の首長となる  
 カトリック教会領・修道院領を没収。  
 これをジェントリに配分し、彼らを地方行政に登用=絶対王政の支持基盤

▶ \_\_\_\_\_ (1547~53、ヘンリ8世 第3王妃ジェーン・シーモアの子、幼少のため伯父が摂政)  
 プロテスタント的一般祈祷書 (Book of Common Prayer) 作成

▶ \_\_\_\_\_ (1553~58、ヘンリ8世の第1王妃キャサリンの子)  
 カトリック復活 ←スペイン王フェリペ2世の妃として

▶ \_\_\_\_\_ (1558~1603、ヘンリ8世の離婚の原因たる第2王妃アン・ブーリンの子)

1559 \_\_\_\_\_ (Act of Uniformity) 発布……国教会制度確立=絶対王政確立

(4). \_\_\_\_\_ (Counter Reformation) ……カトリック勢力の巻き返し

1545~63 \_\_\_\_\_  
 教会の肅正・制度改革・教義の明確化  
 教皇至上権の確認、宗教裁判の強化 (→魔女狩り)

1534 \_\_\_\_\_ 創立  
 \_\_\_\_\_ら  
 軍隊的規律で布教活動・異端弾圧  
 南ドイツやフランスにおいてカトリック勢力を回復  
 スペイン・ポルトガルの船でアジア・アメリカへ布教

→宗教戦争の続発……オランダ独立戦争、ユグノー戦争、三十年戦争 etc.